



さわだ のりひろ

1988年東京医科歯科大学歯学部卒業。92年同大学院修了。博士(歯学)。同大学歯学部文部教官、米国ペンシルバニア大学留学を経て、2002年に澤田デンタルオフィスを開院。東京医科歯科大学非常勤講師も務める。

卒業生の今 活躍する 医科歯科人

澤田デンタルオフィス 院長

歯内療法専門医として 抜歯しない治療を広める

澤田則宏氏

澤田デンタルオフィスの澤田則宏院長は、「抜歯をしない歯科治療」と呼ばれる歯内療法専門医。むし歯や歯周病が進行してしまい、もはや抜歯しかないと考えられるケースでも、歯内療法では元の歯を残しながら治療を行う。

しかしこの治療は、歯の土台の役目を果たす根管内を治療するので専門の技術を要する。神

たケースでも8割の方の歯を残せています」

澤田院長が歯内療法に興味を持ったのは歯学部在学中。歯内療法の講義を受け、歯を残す治療の大切さに共感したという。その後、米国留学中に歯内療法専門医の存在を知り、自らもその道を志した。

「米国では、一般歯科、補綴専門医、口腔病理専門医など様々な分野の専門医が連携して治療を進めており、その中の一つとして歯内療法専門医がいます。日本では歯内療法専門医の認知度は低く、顕微鏡普及率も数パーセント。開業当時は歯科医師からも『歯内療法専門医って何?』と聞かれたほどでした」

現在では国内でも歯内療法専門医は徐々に増えている。とはいえ、1回の歯内療法を行うには約1時間半を要するため、1日に5人の治療が限界だ。澤田デンタルオフィスでは、3カ月先まで予約が埋まっている。

「歯を残したいと希望する患者さんが増えても、歯内療法専門医が不足しているのが現状です。東京医科歯科大学の非常勤講師として年に数回実習のお手

伝いをしていますが、専門医養成のための機関や制度も必要ではないかと感じています」

さらに、一般歯科医師の理解と協力も不可欠だと澤田院長は協調する。

「歯内療法専門医は難しい症例の治療だけを行います。治療が済めば、患者さんには元の歯科医院に戻ってもらうので、一般歯科と協働することが可能なんです。そのような連携ができれば患者さんはより高度な治療を受けられます」

澤田院長は、「自分の歯」を残すことのできる歯内療法をこれからさらに広めたいと願っている。



今日も“自分の歯”をのこすために頑張る澤田院長。

DATA

澤田デンタルオフィス

進行した虫歯や歯周病などでも、抜歯しないで済む歯内療法を専門とするクリニック。手術用実体顕微鏡を用いた歯内療法(マイクロエンド)、外科的歯内療法(マイクロサージェリー)など、最先端の治療を行う。各地の歯科医院からの依頼を受けて治療を行うため、治療が終了した患者は元の歯科医院に戻り治療を続ける。歯内療法専門医育成のため、若い歯科医師を集めて毎月勉強会などを実施している。

